

有機健康 つうしん

遠赤青汁通信 (H21.12.1 発行)

平和の桜、陽光に想いをのせて、
健やかな毎日を応援します。

遠赤青汁株式会社

〒791-0398 愛媛県東温市則之内甲2225-1
TEL フリーダイヤル 0120-148-162
ホームページ <http://www.enseki.com>

農商工連携に認定されました。

六月二十四日、四国経済産業局において、国の農商工連携事業の認定を受けました。

連携体の構成と活用する経営資源



農商工連携イメージ

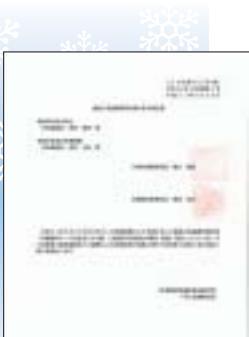


愛媛新聞2009年6月25日

遠赤青汁(株)では、有機栽培のケールを利用した青汁製造を行ってきました。こうした技術を生かし、ケールの特徴を生かす製品作りとして、自然素材にこだわった無添加の石けん・入浴剤・化粧品開発を始めました。従来から遠赤有機農園および契約農家のケール栽培と、石けん製造、販売が結びついた連携事業として、農商工連携事業に認定されました。

遠赤青汁(株)では、有機栽培のケールを利用した青汁製造を行ってきました。青汁の市場は飽和状態になつており、新たな事業展開が必要となつています。

昨年より石けん事業を開始し、伯方の塩を使った「焼塩 萬石けん」



認定書

(代表取締役 高岡照海)

は商品化され、販売するに至りました。こうした技術を生かし、ケールの特徴を生かす製品作りとして、自然素材にこだわった無添加の石けん・入浴剤・化粧品開発を始めました。従来から遠赤有機農園および契約農家のケール栽培と、石けん製造、販売が結びついた連携事業として、農商工連携事業に認定されました。

ケールを活用した石けんや化粧品はこれまでに商品化された例が少なく、遠赤青汁(株)の販売力を生かした商品の事業に対する補助と、サポートを受ける事ができます。良いものを作り、多くの方に安心して使っていただける製品作りを進めていきたいと思っています。

また、先般は徳島で「農商工フォーラム」に参加させていただきました。多くの方が関心を寄せていました。多くの方が関心を寄せていました。

新たな事業展開を加えた遠赤青汁は、今後も有機栽培にこだわり、素材の良さを生かした製品づくりに努めてまいります。よろしくお願ひいたします。

その対策として県も頭を抱えており、知事自ら現地を訪ねて状況や話を聞いておられるそうです。九月三十日に、愛媛県知事加戸守行氏が、耕作放棄地の開拓風景を見学に来られました。愛媛県は地域に占める耕作放棄地率が全国ワースト五位。大きな問題となっています。

守行氏が、耕作放棄地の開拓風景を見学に来られました。愛媛県は地域に占める耕作放棄地率が全国ワースト五位。大きな問題となっています。

ジャングルのような農地の前で高岡と知事



(勇気をもつたよ) (加戸知事)

弊社ではもう十年も耕作放棄地に対しての開墾や再生事業を行っています。高齢化で果樹栽培が続けられない事や特産品の販路縮小で、農地を維持しても生活

ができない実情をご報告させていただきました。また、実際に開墾する圃場を見ていたとき、高岡も木を倒し草を払つての大変さを伝えました。

（勇気をもつたよ） (加戸知事)

弊社ではもう十年も耕作放棄地に対しての開墾や再生事業を行っています。高齢化で果樹栽培が続けられない事や特産品の販路縮小で、農地を維持しても生活



地域を元気にするには県の協力も必要と熱く語る高岡。(右は加戸知事)

地元高校の就職懇談会に参加しました。

遠赤青汁のある東温市には商業科と普通科を有する東温高校があります。

今回、地元企業のトップや就職担当者が参加して、高校生と直接話す機会が設けられました。

新卒者を雇いたいが、現状の厳しい環境では難しい等、企業側の状況はあまり良いとは言えません。高校生からは、今後入社して欲しい人材は? 今後どのような経営を考えているかなど、積極的な質問が飛び交いました。

「しっかりとじとる」高岡も良い刺激を受けたようです。不況下ではありますがあがい力で頑張ってほしいですね。



農地再生に挑む



長く張られたマルチには小さなニンニク用の穴が空いています。

今年から登場したにんにく穴開け機です。これで、一度に穴を深く開けていきます。

空いた穴に種イモを入れて土をかぶせます。



この圃場にはマルチが約300本！1本のマルチに空いている穴の数は3000。およそ90万個のにんにくの種イモが植えられています。



植えてから二週間が経つ頃には、種イモから芽が出てきました。どんどん大きくなりますよ。

にんにくの種になるイモは、九月末から十月にかけて植え付けられます。この時期になると人手も足りません。猫の手よりはマシと、私も植え付けに参加しました。

種になるのは、去年収穫したにんにくです。八片をひとつひとつに分けて、種として植えていきます。

西条市の圃場には、一面にマルチが張られています。マルチはトラクターで張っていきます。土を耕して盛り、畝にしてその上にマルチをかけながら進みます。両方の端だけは鋤で土を盛つて調えます。以前は全部人がやっていた作業なので、ずいぶん楽になつたそうです。

でも上手に進まないと、マルチも同じように真っ直ぐになりません。

マルチには穴が空いていますが、植える時にはその穴に竹べらをさして土に穴を開けなければいけません。今年から穴開け機が登場。一度に五個も穴が開けられ種の植付けが早くなりました。



にんにくの種になるイモは、九月末から十月にかけて植え付けられます。この時期になると人手も足りません。猫の手よりはマシと、私も植え付けに参加しました。

畠をきれいに立てないと、後で収穫する際に苦労します。ひとつひとつ丁寧さが要求されます。今日初めての私ではとても任されない仕事です。

にんにくを植えるマルチには小さな穴がたくさんあけてありました。ケールよりも穴が小さく、その分たくさん植えられるみたいです。

「農地再生に挑む」では放置された農場を再生し、有機圃場として生まれ変わる様子をシリーズとしてお伝えしています。

にんにくの種を穴開け機であけた穴に入れて土をかぶせていきます。この時、向きが決まっていて、芽が出やすいように上に向けて植えていきます。

いざやり始めてみると、植えるのは難しかつたです。きちんと竹べらにそわせて種を入れたつもりでもヘラを抜く時にピヨコンと一緒に出てしまう。土をかぶせてみても、浅くて種の頭が見えててしまう。いつも植えているおばちゃん達はどんどん進んでいくのに、私は半分もできません。

あげくの果てには、ずっと腰をかがめていたせいか、まだ半日なのに腰がイテテ。なんとも情けない助つ人です。

「ここは私が植えましたから印をつけてずっと見て行きます」そう宣言し、芽が出来るまで通わなければと心に誓いました。

「植え方が悪かったらわかるんやけんね（笑）」圃場の皆さんに激励されながら、私の植え付けは終了。

どうぞ芽がちゃんと出てくれますように。願わざにはいられません。

(営業企画部 渡部)

木下さんの
ゆうきの話

「犯人はだれだ！」

にんにくの植え付け前に、マルチという黒いシートが圃場に張られています。ピーンときれいに張られたマルチは、日に照らされると、キラキラして思わず見とれてしまいます（笑）

（写真）
「あれっ、これは？ 木下さん？」
「犬が走ったんよ」



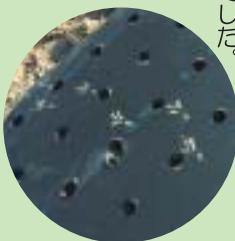
何本も張られたマルチをほぼ直角に横切る穴が続いていました。野良犬がそのまま走ってしまったみたいです。走った跡はなめらかに弧を描いて圃場の端から端まで続いています。結構、滑ったり凹したりで、走りにくい気もするんですが、上手なもんですね。足腰が強いのかな。

変な感心をしていたら、マルチを一生懸命張ったメンバーに申し訳なかつたですね。結局、張り直しまではせずにそのままにんにくを植えました。穴が多くて空いただけだからという意見でした。

他の場所でマルチにまた異常が！

今度は鳥の足がペタペタと。
「二ワトリが足洗わずに

上がったんよ」



事件は現場で起こっている?
圃場には今日も笑いがあふれています。

鳥の足跡がクッキリ！
二ワトリを止める
すべはありません。

EVENT



盛られている石けんの泡
「すごい、こんなに？」
と女性客の注目を集めました。



アグリフードEXPOは「食と農をつなぐ」をキヤッチフレーズに、国産農産物や畜産物、その加工品を紹介する展示商談会です。

ダイエット＆ユーティーフェアは美容と健康を追及する展示会です。

新商品の「ゴールド」や、石けんの泡を体験していただきました。

そして何より畠さんが夢中になつたのはまもなく発売予定の「黒にんにく」です。

「ダイエット＆ビューティーフェア」
(二〇〇九年九月)
に出展してきました。

「アグリフードEXPO」(二〇〇九年八月)
東京ビッグサイトで開催された



「黒にんにく」って何？ 嘉黒なにんにくに旨さん興味津々でした。

臭いを気にしながらおもむろに口にするお客様。食べたとたんにその甘酸っぱい、グリのよくな、今までない食感のとりこになります。あとあと臭いが気にならないのも人気の秘密でしょうか？

「愛媛県産」「有機」の黒にんにくはまもなく発売予定です。ご期待ください！

香港・シンガポールでも遠赤青汁売れてます。

数年前から不定期ですが、海外の販売を続けて参りました。昨年は中国、台湾などの展示会にも参加いたしました。今回、愛媛の企業と協働で香港そぞうとシンガポール伊勢丹で販売を行いました。

以前は現地の日本人が主な顧客でしたが、現在は現地の富裕層や若者を中心に需要が伸びています。日本ブランドも手伝つて、有機栽培（オーガニック）の青汁が選ばれているようです。

高岡自ら先発隊として、香港に乗り込み、身振り手振りで商品をご紹介してきました。中には日本語の分かる方もいらっしゃって、意気投合したようです。

「少々言葉がわからなくて顔を見たりわかる」高岡のがんばりが通じ、今後も定期的に販売が出来るようになります。販売後、何通か海外からもネットやメールで注文が入るようになり、国際郵便の勉強も始まりました。愛媛産有機栽培の青汁を世界に届けていきたいですね。海外勤務の際も、ぜひ注文をお願いします。

現地での販売が日本経済新聞にも紹介されました。

(四国版 二〇〇九年八月四日)



四国八十八箇所・二十一番札所 太龍寺 (たいりゅうじ) 「西の高野 (こうや)」

徳島県阿南市にある太龍寺は、真言宗の総本山高野山と建物の構成が似かよっていること、大師にゆかりの地であることなどから、西の高野と呼ばれ山上に広大な伽藍を誇っています。

空海（弘法大師）の著「三教指帰」には19歳のとき、この地で修行したと記されており、その場所とされる舍心ヶ嶽には現在、修行大師像が座っています。

空海の「空」の字はこの地で、「海」の字は室戸岬で思いついたという言い伝えが残されています。



世界平和への想い、 陽光桜に乗せて届け

「陽光」は、高岡社長の亡父正明氏が天城吉野（あまぎよしの）と台湾紺桜（たいわんひざくら）を交配して作った日本で最初に品種登録された桜です。戦時中、正明氏は青年学校の教師をしていました。「生きて必ずこの桜の元に戻つてこいよ」と教え子を戦地へ送り出しましたが、その多くは残念ながら戻つてきませんでした。自分が生き残つてしまつた。その後悔と教え子の鎮魂のため、戦地に桜を届けようと思い、寒い所でも暑い所でも咲く「陽光」を私財を投げ打つて作り上げました。

世界平和願いサクラ品種改良 碑 故高岡正明氏（豊島）の顕彰碑建立



「陽光」生みの親たたえ

10月1日付けの愛媛新聞にも、様子が掲載されました。

正明氏は日本国内をはじめ、世界に正しく苦労して作り上げた桜を、今度は惜し気もなく人にあげてしまう。送り賃ももらわない、もちろん苗木の代金もいただきません。父親は本当に桜に狂つてしまつた、高岡はそう思つたそうです。

正明氏は九二歳でその生涯を終えますが、間際まで桜の寄付は続きました。地元では「現代の花咲かじいさん」と呼ばれテレビや新聞にも登場するほど、その活動は称えられました。

陽光を育てることに没頭するあまり、家族の生活も顧みない。高岡は当時の生活を振り返ると今でも胸が詰まるそうです。

桜、桜で毎日の食事にも苦労する始末。母にも大変な苦労をさせて、そこまで打ち込む必要があるのかと父正明氏を責めた日もありました。

ようやく念願の「陽光」が完成し、正明氏は日本国内をはじめ、世界に

後年、父の遺品を整理していると手紙が見つかりました。桜の寄付をした方々からの手紙です。いただいた手紙を読み返すうちに、亡き父の戦争で受けた悲しみや世界平和を願う想いにふれ、心のわだかまりも解けたそうです。もっと話を聞いてあげればよかつた……。

それ以後、高岡は父の想いを引き継ぎ世界に桜を送り続けています。リトアニアやトルコ、昨年はベトナムにも千本の桜を植樹してきました。

今年はメキシコで植樹を行います。九月三十一日、故正明氏の功績と生誕百年を記念して、愛媛県砥部町赤坂泉に顕彰碑が建立されました。

顕彰碑は東西に延びる陽光の桜並木の中央に建てられています。きっと春になつたら、桜の花弁が石碑を彩つてくれると今から楽しみです。



赤坂泉には陽光桜が約100本植えられています。
春には赤い花を咲かせ、地域の憩いの場となっています。
(2009年3月21日撮影)



左から高岡、故正明氏、高岡の妻令恵



★ 陽光は世界で咲いています ★

- ①中国（西安）
- ②韓国（ソウル）
- ③台湾
- ④リトアニア（カナウス市）
- ⑤イタリア（ヴァチカン市国）
- ⑥トルコ（イスタンブル）
- ⑦チュニジア（チュニス）
- ⑧スリランカ
- ⑨ベトナム
- ⑩カンボジア
- ⑪メキシコ

